

◎構成文化財の写真一覧（瀬戸市）

2-1 陶土・珪砂採掘場



2-2 広久手第30号窯跡



2-3 瀬戸窯跡 小長曾陶器窯跡



2-4 瀬戸窯跡 瓶子陶器窯跡



2-5 陶製狛犬



2-6 古瀬戸瓶子



2-7 窯垣



2-8 窯垣の小径



2-9 赤津瓦



2-10 やきもの祭り



ストーリーの構成文化財一覧表（瀬戸市）

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
2-1	とうど けいしゃ 陶土・珪砂採掘場	未指定	主に木節粘土や蛙目粘土が産出される鉱山で、その風景は見る人を魅了する圧巻の風景である。	愛知県 瀬戸市
2-2	ひろくて 30号 広久手第 30号窯跡	市指定史跡	瀬戸市域ではじめて灰釉陶器生産が行われた平安時代の窯跡。瀬戸窯最古段階の窯跡。	愛知県 瀬戸市
2-3	せと かまあと 瀬戸窯跡 こなが そうきかまあと 小長曾陶器窯跡	国史跡	室町時代の古瀬戸を生産した赤津の窯跡で、その 300 年後に、尾張藩主の命により窯炉が再利用され、茶陶生産が行われた。	愛知県 瀬戸市
2-4	せと かまあと 瀬戸窯跡 へいじょうきかまあと 瓶子陶器窯跡	国史跡	近世赤津村の窯跡。尾張藩士の名が書かれた陶札が出土しており、茶陶の注文生産が行われたことで知られる。	愛知県 瀬戸市
2-5	とうせいこまいぬ 陶製狛犬	国重文 (工芸品)	創建 771 年、式内社である深川神社に伝わる陶製の狛犬。古瀬戸生産の創始者といわれる加藤四郎左衛門景正作と伝えられる。	愛知県 瀬戸市
2-6	こせと へいし 古瀬戸瓶子	市指定 (工芸品)	鎌倉時代中期、古瀬戸生産の前期に生産されたもので、武家の都である鎌倉に集中して運ばれた製品のうちの代表的な器種。	愛知県 瀬戸市
2-7	かまがき 窯垣	未指定	瀬戸市の中心市街地周辺、近世瀬戸村域の随所でみられる。窯道具であるエンゴロ・棚板などを組み合わせて構築した擁壁や塀で、瀬戸特有の雰囲気を醸し出している。	愛知県 瀬戸市
2-8	窯垣のこみち 窯垣の小径	未指定	洞の生活道路として、また、窯の燃料や製品を運ぶ産業道路として活用された道。窯垣が随所にみられる。	愛知県 瀬戸市

2-9	あかつ 赤津瓦	未指定	赤茶色が特徴的で、近代以降、特に赤津地区の窯屋のモロ（工場）などで使われた。発色の変化により、美しい様々な模様がみられる。	愛知県 瀬戸市
2-10	やきもの祭り	未指定	瀬戸を代表する祭りとして、陶祖藤四郎の遺徳を偲ぶ「せと陶祖まつり」（4月）、磁祖加藤民吉の偉業を称える「せともの祭」（9月）がある。	愛知県 瀬戸市

（※1）文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

（※2）指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。

（※3）各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

（※4）ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。